令和3年度あやせババール園事業計画

1、施設理念

- ・一人ひとりの個性を尊重し、「遊び」を中心とした多様で豊富な生活経験を通じて「たくましく生き抜く力の基礎を育む」保育に努め、地域社会から信頼される園運営をめざし、心身ともに健やかな子どもを育てます。

2、施設方針・テーマ

- ・子ども一人ひとりを大切にし、子どもの発達と個性を認め、自信をもって自分らしく意欲的に遊びや生活が築けるように援助します。
- ・家庭や地域の様々な社会資源と連携を図りながら、地域の子育て中の保護者、子ども、そして私たちが共に成長する喜びを共有できるよう子育て支援に努めます。
- ・コンプライアンスの徹底に努め、子どもの人権、健康、安全、安心を守る環境づくりを行います。

3、実施事業及び定員

(1)保育所 利用定員 90名

0歳児→6名、1歳児→10名、2歳児→12名

3歳児→20名、4歳児→21名、5歳児→21名

- ・0歳児 2名、1歳児 2名、2歳児 3名の弾力化を実施予定

(2)特別保育事業

発達支援児保育事業

延長保育事業

年末保育事業

パートナー保育事業

一時預かり事業 定員10名

4、重点目標

- ・家庭や地域と連携し、こころもからだも健やかで、豊かな感性を持ち、自分も周りの人も大切にする子どもを育てます。

☆基本的な生活習慣（健やかに伸び伸びと育つ）

- ・のびのびとからだを動かし、元気いっぱい遊びます。
- ・食への興味、関心を育みます。
- ・見通しを持って自ら行動する力を育みます。

☆他者とのかかわり（身近な人と気持ちが通じ合う）

- ・様々な人たちとの交流を大切にします。
- ・友だちと関わる中で、互いの思いや考えなどを、共有できる関係を築きます。
- ・人と心を通わせるなかで、豊かな言葉や表現を身につけます。

- ・遊びや生活を通して、社会生活に必要なルールやマナーを身につけます。

☆学びの芽生え（身近なものとの関わり感性が育つ）

- ・自然と触れ合う機会をたくさん作ります。
- ・遊びや生活の中での「気づき」を大切にします。
- ・数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねていきます。
- ・自分で考えてやってみる経験を通し、自信を持てるようにします。
- ・体験や出会いから、心が揺さぶられる機会を作ります。

(1) 人材育成と職場定着

- ◆保育園の方針を明確にし、子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育を行うと共に、保育内容の改善等に取り組み、共通理解や協働性を高め、保育の質の向上に努める。
- ◆自己評価に基づく課題等を踏まえ、内外研修会に参加し、保育技術など専門性を高め、一貫性・連続性のある保育教育の実践に努める。
- ◆職員間の連携、情報共有の場（クラス会、全体会、幼児会、乳児会等）を確保し、内容の充実を図る。
- ◆コミュニケーションをより円滑にするため、「報告・連絡・相談」の励行や交流会等を行う。
- ◆職員の業務軽減と保護者との連絡をより確実に簡易にするため、ICT化を実施する。各クラスの端末で職員はいつでも健康観察や連絡事項を記載することができ、戸外活動で写真や動画を撮り、迅速な編集が可能となる。

(2) 利用者へのサービス提供（顧客満足・質の向上）

- ◆子どもが持っている豊かな感性や主体性・成長しようとする力を育むために、発達や学びの連続性を踏まえて養護と教育を一体化した保育を行う。
- ◆体験を通じた人格形成の基礎づくり（基本的生活習慣の確立・豊かな感性と創造性・規範意識の芽生えを培う）。
- ◆施設交流・地域交流を通して豊かな心・思いやりの心を養う。
- ◆保護者からの要望の多い連絡帳アプリを導入する。障がいを持つ方や外国籍の方も苦勞なく園との連絡を取ることができ、保護者の持つ端末を使用し登降園管理ができるので、衛生面でも有効となる。

(3) リスク対策（感染・安全・災害等）

- ◆感染症防止対策を徹底的に実施し、感染症を施設内に侵入させないために最大限の努力を行う。また、万一感染症が施設内に入った時に、慌てず迅速に最良の対応ができるよう、事例検証や職員研修、事前準備をする。
- ◆安全及び衛生管理（温度・室温・換気・採光・感染症等）・保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める。

- ◆防災・消火訓練を毎月1回以上、防犯・水害・通信訓練を年1回以上実施する。
(行政、本部含む)
- ◆個人情報保護法、児童虐待防止法、児童福祉法等コンプライアンスを徹底する。
- ◆子どもたちの心身の健康を最優先にした行動を心がけ、災害時だけでなくアフターケアに十分配慮する。

(4) 施設・設備整備

- ◆専門家による固定遊具点検・プール点検を実施する。
- ◆必要に応じ備品を確保する。
- ◆園内外の管理(園庭整備・安全で快適な環境整備)をする。
- ◆遊具・玩具等の点検を毎日実施する。

(5) 地域連携・社会貢献

- ◆高齢者施設・保護者と連携し、計画的な交流の充実を図る。
- ◆近隣の保育園や小学校との計画的交流、広報誌や園だより等の配付、用品の貸し出し等を実施し、地域との連携を図る。
 - ・コロナ禍においては直接的な交流の実施は難しいことが予想されるので、ビデオレターや手紙の交換など間接的な交流の方法を工夫しながら実施する。
- ◆地域の子育て家庭を対象としたパートナー保育を実施する。
 - ・育児相談、園庭開放、園行事へのお誘い等
- ◆一時預かり保育を実施し、地域の子育て家庭への支援に努める。
- ◆学生の職場体験や教育実習を受け入れ、保育の仕事への興味関心を持ってもらい、将来の保育従事者の育成に協力する。

(6) 経営管理

- ◆入所児童数を確保する。
 - ・近隣の保育ママや幼児クラスのない認証保育所などと交流を持つ。
実際に会うことはできずとも、オンラインなどを活用する。
 - ・3歳児への進級児確保のため、要望の多い就学に向けてのカリキュラム導入、
また、COT(運動カリキュラム)の3歳児からの指導を開始する。
 - ・ホームページを充実させ、本園の保育の魅力を外へアピールする。
- ◆職員一人ひとりがコスト意識を持って行動する。
 - ・使っていない照明やエアコンを切る。
 - ・コピーするにあたっては、可能な場合は裏紙を利用する。
- ◆運営会議の充実を図り、職員会議にて全職員の共通理解のもと経営管理をする。
- ◆一時預かり保育利用児童の確保を図る。

5、新規事業

なし

6、その他

- ◆保育士業務の ICT 化は、法人内保育所では初めての取り組みなので、計画（業者とのやり取りも含む）から取り組み、評価まで記録し、法人へ水平展開していく。